

2 人

活力ある少数社会をいかに育むか
—共同から協働へ—

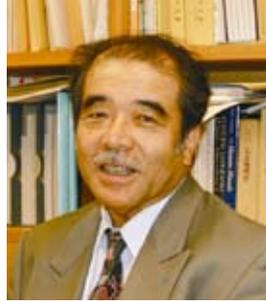
宮口 侗 勉



活力ある少数社会をいかに育むか —共同から協働へ—

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

宮口 侗 勉



電

源地域の大半は山間にあり、多くは過疎地域に指定されている。過疎地域の活性化のための国の支援は、一九七〇年に初めて過疎地域を支援する法律ができて以来続けられているが、一段と進む少子高齢化の中で、きびしい状況が続いていることに変わりはない。

筆者は、平野部にある県庁所在地を中心に都市化が進む中で人口減少が続いた山間地域を、劣った地域と考えることは間違いだと、何度も指摘してきた。これらの地域は、水源地として水を平野部に供給し、かつてはわが国の電気エネルギーの多くを都市に供給する役割を果たしてきた。むしろ過疎問題の本質は、そこにある地域社会が数によるパワーを失う過程で、少数による活力ある地域社会のしくみを創造することができなかつたことにこそあると、筆者は早くから主張してきた。

人口が減る社会では、数が増えることによって活力が増大する都市とは違った原理で社会をつくり直して行かなければ、活力は失われ、多くのことが行き詰る

てしまう。しかし過疎地域の多くは、どちらかという都市のようになろうとすることに熱心であった。かつてのわが国の地域社会は、よく似たタイプの人や世帯の塊であった。そしてそこには多くの共同作業があった。農作業やお祭り、さらには道普請などに、文字通り共に同じ人たちが力を結集し、そこにはそれなりのパワーがあった。対して今、過疎地域の地域社会はそのようなパワーを失ってしまった。しかし昔に比べると、数は減ったものの、今は逆にさまざまな違ったパワーを持つ人が混住していることが重要である。

筆者は、同じタイプの人が力を結集した昔の共同作業に対して、少数でも違った力を組み合わせて飛躍的な力にすることを、今流の協働と考えたい。リタイアのUターン者、若いUターン者、元気な女性などの参加のもと、できる行政職員が要となつてさまざまなテーマのプロジェクトを動かしていくことこそが、活力ある少数社会への道ではなからうか。

3 Pick Up !

住民と行政の「協働」で
いきいき住みよいまちづくり

広島県 安芸高田市

8 ふるさと応援団

竹田研究所

大分県 竹田市

10 いきいき電源地域

大間超マグロ祭り

青森県 大間町

おながわ秋刀魚収穫祭

宮城県 女川町

12 センター掲示板

- ・「原子力発電所見学会」を実施しました
- ・「エネルギープラザ2007」を開催しました
- ・「エネルギー人形劇」を上演しました
- ・「でんきのふるさと 新潟げんきフェスタ in ごはんミュージアム」を開催しました
- ・Vol.8・9 読者の声から
- ・人事往来
- ・読者プレゼント
- ・お知らせ

16 電気のふるさと産品自慢

かんもち紙風船

富山県 立山町

今号の表紙

島根原子力発電所(中国電力)

総出力: 128万 kW

運転開始: 昭和49年3月(1号機)

: 平成元年2月(2号機)